

研究所だより

第450号
2022年12月 2日
発行：土佐清水市教育研究所
TEL 82-3015

“ 雪の降る夜は 楽しいペチカ
ペチカ燃えろよ お話しましょ
昔 昔よ 燃えろよペチカ ”



『 ペチカ 』 童謡・唱歌 1924年(大正13年)

～ 初冬 おおさむこさむ ～

今年もはや12月。暦の上では7日は「大雪」です。「雪が激しく降り始める頃で、土には霜柱が立ち、水たまりなどが凍り、平野部でも積雪が見られる頃」と言われています。また冬特有の真っ青な高い空を見ることもできます。冬が深まっていく季節、栄養豊富な旬の食べ物をたくさん食べて、体の芯から温まって元気に過ごしましょう。

年末になり、新型コロナウイルス第8波は、ゆっくり拡大というのが関係者の共通の見解のようです。冷え込みが厳しくなるとインフルエンザの流行も懸念されますので、引き続き基本的な感染防止対策(マスク、手洗い、うがい、3密回避、体調の管理)の徹底を心がけましょう。

<第72次土佐清水市教育研究集会・半日教研>

11月 9日(水)に各部会公開授業を主体とした半日教研が開催されました。それぞれの部会で研究授業や講師を招聘しての研修、日々の実践交流等ができたものと思われまます。

各部会の研修(公開授業・研究協議等)の様子を紹介します。

〔国語〕
「『不便』の価値を見つめ直す」
清水中学校1-1
授業者：北代 滉 先生



〔社会科〕
「足摺岬・松尾地区の歴史等の学習」
足摺岬小学校5・6年
講師：田村 公利 氏(市史編纂室)



〔算数数学〕
5年「ならした大きさを考えよう」
6年「比例の関係をくわしく調べよう」
下川口小学校
授業者：岡田 佐知 先生



〔理科〕
「わたしたちの体と運動」
清水小学校4-1
授業者：中野 徹 先生
講師：文野 貴之 氏

〔外国語〕
「Unit5 Universal Design」
清水中2-2
授業者：弘田 華愛 先生



〔情報教育〕
【球技】ゴール型：バスケットボール
清水中学校1-1
授業者：田野 聖悟 先生

〔教育相談〕
「クエスチョンYes or No」「紙コップタワーあそび」
幡陽小学校2・3年
授業者：岡田 水砂 先生
講師：小松 宏暢 氏(ORSC)



〔養護〕
「SNSでのコミュニケーションのとり方」
三崎小学校5・6年
授業者：末廣 優乃 先生

〔事務〕
清水中学校
・学校事務(冊子の研究)
・タイムマネジメント演習
・情報交換



令和4年度 高知県学校総合支援事業 ＝足摺岬小学校防災教育研究発表会＝

足摺岬小学校は、本年度「高知県学校総合支援事業」の指定を受け、この4月から取り組んできました。足摺岬小学校の取り組みを通じて、各学校の学校安全の組織的取り組み等を促進し、モデル地域全体での学校安全推進体制を構築することを目的として取り組みを進め、11月17日（木）に防災教育研究発表会が開催されました。

はじめに全学年による公開授業がありました。低学年（1,2年生）は、「つながる広がるわたしの生活『身を守るためにできることを考えよう』～家で地震が起きた時のためにそなえよう～」というテーマについて5人でしっかり考え、この日のスペシャルゲストでもある園児2名にもわかるように一生懸命に説明していました。振り返りでは園児から「よく分かりました」の感想が聞かれました。中学年（3,4年）は、「学校周辺の防災について考えよう～防災マップを作成し学んだことを伝えよう～」というテーマについてグループで話し合い、それぞれのグループの意見を発表しました。その中で「防災の学習が命を守るんだ」という力強い意見も聞かれました。高学年（5,6年）は、「ふるさと防災再発見～自分にできること～」というテーマについてこれまでの学習や経験を振り返り、災害に遭った時の行動を「クロスロードゲーム」形式で行い、自分で考え判断したことを発表しました。授業の終末では、土井アドバイザー（ジオ専門員）から子どもたちのそれぞれの意見について評価をしていただきました。

全体会では、岡田 隆也教頭（学校安全担当）から「足摺岬小学校ふるさと防災学習の取り組みについて」の説明がありました。5・6年生の発表では、「あしずりみさきっ子ガイド」について、スクリーンに映し出される足摺岬周辺のオススメスポットを本番と同じスタイルでユーモアを交え、とても分かりやすくガイドしていただきました。また、有事の際に避難する避難場所や避難方法についても手作りの「足摺岬・松尾観光防災リーフレット」に記載しており、観光ガイドだけでなく防災に関することについてもきちんと説明してくれました。

パネルディスカッションでは、パネリストに大木聖子准教授、土井恵治ジオ専門員、岡崎哲也教育長をお迎えし、『これからの土佐清水市のふるさと教育・防災教育を考える』をテーマに「公開授業について」「これまでの取り組みを振り返り、今後の防災教育をどう進めていくのか」「更に進めていくためにどういう取り組みが必要なのか」などについて意見を交わしていただきました。

3人のパネリストたちは、「地域に誇りを持って生活できるような取り組みの推進」「『継続性』→将来にどうつなげていくのか」「子どもたちは南海トラフ地震が起きることをきちんと受け止めている。その上で綴っている。まさにふるさと愛（キャリア教育）です。有事の際は、子どもたちも一市民として取り組んでくれる」などと熱く語っていただきました。

今年度拠点校として取り組んでいる足摺岬小学校が最後の指定校であり、市内7校全ての指定研究は終了しますが、防災教育に終わりはありません。事業終了後も各校が「学校安全計画」「防災教育年間指導計画」を整備し、学校及び地域の実情にあった防災教育を地域と連携しながら取り組んでいくことが重要になってくると思います。



〔岡田教頭：実践発表〕



〔1・2年生〕



〔園児2人も参観〕



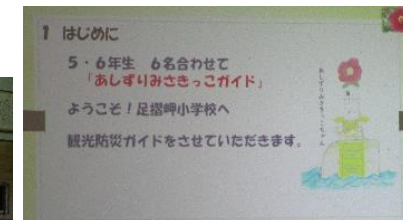
〔3・4年生〕



〔持ち出し用リュック〕



←〔5・6年生〕→



〔あしずりみさきっ子ガイド〕
（5・6年生）



〔パネルディスカッション〕



〔岡崎教育長〕



〔大木准教授〕



〔土井専門員〕



〔平林校長：閉会挨拶（謝辞）〕

